

2010.11.09「尖閣諸島 流出より隠蔽を謝罪せよ！！」

こんにちは、参議院議員の西田昌司です。

今日は尖閣諸島沖で発生した中国漁船衝突事件のビデオに関する話をしたいと思います。

11月の5日金曜日、私は朝起きて驚きました。YouTubeに尖閣諸島沖の映像が流れていたわけです。これは、今まで政府が映像の公開をしないことに憤りを感じた方が、内部告発的に映像を出したのだらうと私は思います。

そこで、皆様方に思い出して頂きたいことがあります。昨年、政権交代した時、政府の内部告発を受け入れるためのインターネットサイト「鳩耳.com」を設けて内部告発を奨励していました。開かれた行政・政治を行うという名目で、民主党は内部告発を奨めていたのです。ところが、鳩山内閣から菅内閣に交代すると、政策決定過程が全く表に出てきません。

これを象徴しているのが今回の尖閣諸島沖問題です。国内法で粛々と対応すると発言して中国船の船長を逮捕しながら、それを反故にして船長を釈放し、処分も曖昧になってしまいました。証拠のビデオに関しては、ビデオを見ればどちらが悪いのか分かると答弁しておきながら、国民には一切知らせていません。国会でも衆議院の予算委員会で放映しましたが、提出された物は6分少々の編集されたものです。YouTubeでは40分程度のビデオが流出しました。これを見られた方は、なぜ今まで政府はビデオを公開しなかったのかと疑問に思

うはずです。非公開にした理由すらわかりません。あのビデオを見れば、中国側に問題があったことが誰の目にも明かであり、日本政府が中国人船長を逮捕した正当性も理解できます。当初は、このビデオを公開するつもりだったのかもしれませんが。しかし、中国側の圧力に屈して中国人船長を釈放して、方向を180度変えてしまいました。民主党の決めた政策の方向性が今までの逮捕と矛盾してきたので、その矛盾をつかれるのを恐れて、自己保身の為にこのビデオを隠したのだろうと思います。

こうなると、まじめに仕事をしていた海上保安庁の職員達が憤りを覚えるのは当たり前です。このビデオをどなたが出したかは、まだわかりませんが、その気持ちは大いに理解できると私は思います。政府の了解なしに国民に出してしまったことは、公務員として法律上は守秘義務違反に抵触するかもしれませんが。しかし、倫理的に考えた場合、義憤に駆られた行為だと思います。当初、政府は国内法で粛々と対応すると発言しておきながら、中国の政治的圧力に屈して突然中国人船長を釈放、ビデオを非公開にすると決定しました。これでは、現場の職員は堪ったものではありません。その義憤から、国民に自分達の仕事は正しかったのだと知らせたかったのだと思います。

時代は違いますが例えるとすれば、忠臣蔵の赤穂浪士の話です。江戸幕府では公儀に刃向かうこと自体罪になりますが、彼らのしたことは政府に対する命がけの直訴であり、抵抗でした。サムライの魂の見せ所だったと思います。海

上保安庁の職員も同じように、義憤の気持ちから出てきたということを私達は理解したいと思います。

そして、この一件で最も反省すべき事は、この問題が刑事告発されてしまいましたが、今後どなたがビデオを流出させたのか判明するかもしれません。しかし、法律論以前に、政府の対応自身がころころと猫の目のように変わってしまい、それに翻弄され職員達の義憤の思いが爆発したのです。そもそもの原因は、仙谷官房長官を始めとする菅内閣にあります。この事を私達は、改めて追及していかなければならないと思っております。今後ともご支援よろしくお願い致します。ありがとうございました。